

平成22年度 第56回 栃木県小学校社会科教育研究会

第3学年提案

足利支部

提案者 足利市立筑波小学校 柏瀬 順一

授業者 足利市立山辺小学校 松葉 信夫

研究主題「よりよい社会を築こうとする子どもを育てる社会科学習」

～ 自ら考え判断し、進んで社会に働きかける力の育成 ～

1 小単元名 工場の仕事の工夫

2 学習指導要領の目標及び内容の分析

本単元は、学習指導要領「社会」第3学年及び第4学年の目標(1)(3)を踏まえ、内容(2)の
ア、イ及び内容の取扱い(2)に基づいて設定されたものである。

目標(1)について

地域の産業や消費生活の様子、人々の健康な生活や(良好な生活環境及び)安全を守る
ための諸活動について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにする。

理解に関する目標である「地域の産業や消費生活の様子」については、地域の人々の生産活
動や販売活動の様子には特色があることや県内には特色ある産業があることを理解できるように
することにねらいがある。

態度に関する目標である「地域社会の一員としての自覚をもつようにする」とは、児童一人一人
が地域社会の一員であるという意識や、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境、安全な社
会を実現していくために共に努力し、協力しようとする意識を育てるようにすることである。

この目標を実現するためには、内容の(2)、(3)、(4)及び(6)の一部の指導を通して、地域社
会の人々の様々な工夫や努力、協力をしていること、その結果、人々の健康な生活や良好な生活
環境の維持と向上が図られていることを理解できるようにするとともに、地域社会の一員としての自
覚を育てるようにすることが大切である。

目標(3)について

地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や各種の具体的資料を効果的に
活用し、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力、調べたことや
考えたことを表現する力を育てるようにする。

「地域における社会的事象を観察、調査する」とは、地域の地理的環境や人々の社会的生活の
様子を具体的にとらえたり、その特色や相互の関連などを考えるために、地域における社会的事
象を自分の目でよく見たり調べたりすることである。

「地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力」とは、自分たちの住んで
いる市と県内の他地域との比較などによって人々の生活の特色について考える力や願いを実現
していく地域の人々の工夫や努力、地域の人々の生活や産業と国内の他地域や外国との結びつ
きなどについて考える力を育てるようにすることである。

この目標を実現するためには、第3学年及び4学年の内容全体の指導を通して、学習問題に即して意欲的に観察、調査したり、地図や各種の具体的資料を活用したりして調べることができるようにする必要がある。また、調べたことや地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えたことを相手にも分かるように表現できるようにすることが大切である。

内容(2)のア、イ及び内容の取扱い(2)について

地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

「地域の人々の生産や販売」とは、身近な地域や市の人々の農作物や工業製品などの生産や販売に関する仕事を指している。

「次のこと」とは、学習する際に調べる具体的な対象である、「地域には生産率販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること」「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり」の二つを指している。

ここでは、地域の人々の生産や販売の様子を見学して調べることや、生産や販売の仕事に携わっている人々から話を聞いて調べること、原材料や商品の仕入れ先や生産物の出荷先、働く人の通勤圏などを聞き取り調査することが考えられる。

「それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする」とは、農作物や工業製品などの生産に関する仕事に携わっている人々がそれぞれの仕事の特色に応じて、他地域などのかかわりを持ちながら、様々な工夫をしていることを考えることができるようにすることである。

ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること

「地域には生産や販売に関する仕事があること」を調べるとは、自分たちの住んでいる身近な地域や市の人々の生産や販売に関する仕事の種類や分布を取り上げ、身近な地域や市には生産や販売に関する様々なしごとがあることを具体的に調べることである。ここでは、生産に関する仕事として物をつくる工場の仕事を考える。

「それらは自分たちの生活を支えていること」とは、地域の生産や販売に関する仕事と自分たちとの生活の関わりについて取り上げ、自分たちの住んでいる地域や市の人々の生産や販売に関する仕事が、自分たちの生活を具体的に調べることであり生産に関する仕事が自分たちの市の産業として地域に根ざしていることや、生産されている物が自分たちの生活につかわれていること、工場などが、地域の人々の働く場所になっていることを取り上げることが考えられる。

実際の指導に当たっては、見学や調査、作業的な活動を取り入れて、具体的に調べる大切である。市内の工場の分布について調査したり、資料を活用したりして白地図にまとめる活動、また、工場の仕事の様子を観察したり仕事に携わっている人から話を聞く活動を通して、生産や販売の仕事の工夫と自分たちの生活との関わりについて気づくようにすることである。

イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり

「地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色」を調べるとは、工場の仕事については原材料の仕入、生産のおよその工程、働く人の服装や仕事の進め方、製品の販売などに見られる仕事の工夫を取り上げることが考えられる。

「国内の他地域などのかかわり」を調べるとは、原材料や商品の仕入、生産物の出荷、働く人の通勤圏などに見られる結びつきを取り上げ、地域の人々の生産の仕事が様々な面で国内の他

地域などとかかわりをもっていることを具体的に調べることである。

国内の他地域などとかかわりについて取り上げる視点としては、人と物の二つが考えられる。

人によるかかわりについては、工場で働く人が自分たちの市以外に住んでいる場合があり、物によるかかわりについては、自分たちの市の生産物が他の市へ出荷されたり、工場の原材料が他の市で生産されたりしている。県内はもとより広く国内の他地域や外国にも及ぶ場合もある。

これらの学習を通して、地域の生産や販売の仕事に携わっている人々の工夫を考えることができるようにする。

2) 内容の(2)については次のとおり取り扱うものとする。

ア「生産」については、農家、工場などの中から選択して取り上げること。

ウ「国内の他地域など」については、外国とかかわりにも気付くよう配慮すること

内容の取り扱い(2)のアでは、地域の生産活動については、地域の実態から工場の仕事を挙げる。

ウは、生産活動における原材料や商品の仕入先や生産物の出荷先などを調べる際、結びつきの見られる県や国の名称と位置を地図などで確かめる活動を行い、国内の他地域や外国ともかかわりがあることに気付くように配慮して指導する必要がある。

3 児童の実態(男子15名 女子15名 計30名)

①社会科への関心・意欲・態度について

「社会科が好きですか」という質問に対して、「好き」が9名、「少し好き」が18名、「あまり好きではない」が3名でクラスのほとんどの児童が社会科が好きと答えた。理由は「実際に見学に行くことが好き」「本などで調べること」「絵や文にまとめること」などの意見が多かった。実際に行って体験し、まとめることに対して関心が高く、意欲的である。しかし、インタビューすることを苦手とする児童が8人おり、実際に見学しても自分から進んで意見を聞くことの苦手な児童がいることがわかった。

②学習形態について

グループでの学習を好む児童が20名で、その主な理由として「みんなで調べた方が分かる。」「分からないところは聞くことができる。」をあげている。一人で調べることが好きと答えた児童は6名だった。全体的にグループ活動を好んでいる児童が多かった。そこで、本単元ではグループでいろいろな意見を出し合いながら、学び合いの時間を作りたいと考えた。

③工場に関することについて

家の中に工場で作られている物がありますかという質問をしたところ、電気製品や衣類、鉄製品、文房具類、その他の道具類などの意見が出た。ほとんどの物が工場で作られているということを、児童の多くは知っているようである。しかし、家の周りにどんな工場があるかとの質問に対しては、半分近くの児童が分からないと答えた。家の周りのことに対して、関心をもっている児童が低いことがわかった。また、家の人が工場で働いているかという質問に対しては、「いない」と答えた児童が多かった。工場を身近に感じていない児童が多いので、学校の近くにある工場を見学しながら、少しでも工場で働く人たちやその人たちの願いなどについて、考えていけるような学習を進めていきたい。

④対象児について

	よ	さ
対象児A	社会科への興味・関心が比較的高く、積極的に学習に取り組んでいる。また、自分の意見をみんなの前で発表することができ、グループで話し合いをするときなどは、中心となって話を進めることができる。実際に見学に行くことや、そこでインタビューすること、絵や文にまとめることなどに対して関心が強く、とても意欲的である。	
対象児B	社会科への興味・関心が高く、課題に対してまじめに取り組むことができる。思考力があり、資料を読み取る力も高い。積極的とは言えないが、みんなの前でしっかり発表することはできる。実際に見学に行くことや、絵や文にまとめることに対して、「すき」と答えている。	

4 小単元の展開構想

(1)自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる教材の開発について

①子どもが主体的にかかわり問題解決への意欲を高める実社会の教材開発

今回は次の理由で、アキレス株式会社(足利第一工場)を取り上げた。

- a) 本市副読本『のびゆく足利』に取り上げている。
- b) 工場が学区内にある。
- c) 児童がよくはく靴を製造している。(上靴・「瞬足」)
- d) 市内に工場が3つある。
- e) 市内でも最大規模を誇っている。

②社会に生きる人間の姿を追究できる教材の開発

普段履いている靴が、地元にある工場で、どのように作られているのかを知ること自体児童にとっては大切である。さらに機械化された流れの中で、工場で働く人たちがどのように作業に関わっているかを考え、実際に見学することは、単なる靴製作だけでなく、ものづくりの立場から見ることができる。

③今日的な課題や視点を重視した教材の開発

今回見学する工場でも、製作全体を行っておらず、原材料からの加工は中国、デザインの一部も外国の会社へ委託している。グローバル化にともない、それぞれのメリットを生かして日本の企業が動いていることを知ることができる。

また企業の理念として、利潤追求以外にも「社会との共生」も打ち出しており、製品の提供という視点から社会の貢献しようとしている姿が見られる。

(2)自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習過程の工夫について

①社会とかかわり、ともに学び、考えを深め合うことができる学習過程の工夫

1) 社会とかかわりをもって学ぶことができる学習過程

何気なく履いている靴には、足を保護するだけでなく、機能性やデザイン性が求められている。児童自体も校庭のトラックを走ることに特化した靴を求める流れが現在もあり、それを企業は提供している。そこで、今自分が欲しい靴を考えることで、靴に対する自分の思いを具現化したい。それを基に、工場ではどんな工夫をしているかを考えさせたい。

2)ともに学び、考えを深め合うことができる学習過程

自分で考えた靴をもとに、工場見学をした中で発見した事柄を踏まえて、グループで話し合いをしながらおすすめする靴を考える。ここでは、多くの要素を加えるよりも、一言でわかる「セールスポイント」をキーワードにすることで、自分たちのコンセプトを明らかにする。

②社会と自分とのかかわりを意識し、学習のめあてを明確にもてる学習問題の工夫

単なる思いつきで靴を考えるのではなく、見学での成果を生かすことや話し合いの中である程度メンバーを納得させることができることで、社会とのかかわりをもたせたい。わがままやこだわりだけでは独りよがりになるが、メンバーへ説明したり、意見を聞いたりすることでおたがいのかかわりをもたせたい。また可能なら靴に関わる人からの意見も聞くことで、現実的な面に触れることも大切と考える。

(3)自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習活動と支援・評価の工夫について

①人や社会とのかかわりを大切に学習活動と支援の工夫

工場見学で学習したことを知識として知るだけでなく、それをもとに自分たちが考えた靴を話し合いで考える学習活動を取り入れたい。夢物語ではなく、具体的にみてきた実際の場面を常に頭の中に入れて話し合うことで、そこで働く人や製品を買う人の思いを考えさせたい。そのための支援としては、常に「工場見学の成果」へ振りかえる声かけなどを行うようにしたい。

②社会を実感し、考え判断する力を育てる体験的な活動と支援の工夫

工場見学の事前学習として、自分の靴を考えておくようにさせる。靴を作るような過程が工場にあるかを質問にしたりしておく。また靴に関わる人たちとのかかわりから、それぞれのコンセプトに対する意見を述べる場面をできるだけ設定する。それにより自分たちでは思いつかない、多面的な意見を聞く事ができると考える。

③ともに学び、考えを深め合う活動と支援の工夫

見学後の話し合いの中で、自分だけの靴からグループのおすすめの靴を考えさせる。その際は、自分の靴のいい点をメンバーに伝え、理由や手立てなどを付け加えることで、メンバーを納得させるようにする。思いつきだけでは社会の賛同は得られないことを、話し合いの中で進めていきたい。そのためにはワークシートや机間指導などで意見の他、理由や手立てを明らかにする様に指導していく。その際、シートなどでは、教師が目を通して朱書きなどを入れることで、ヒントやサポートをしていくことができると考える。

④自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる評価と指導・支援の工夫

工場見学の質問を作成する際、オリジナルの靴に関わる内容が表れたり、ものづくりの工夫を知ろうとする内容のものになるように周知するとともに、実際にある場合は賞賛する。ワークシートなどを活用することで、学習成果を残すことができ、自分の学習過程を知るようにさせることもすすめていきたい。

5 小単元の目標と評価規準

(1) 小単元の目標

工場の仕事を調べることを通して、工場で働く人々はよい製品を作ったり、売ったりするために工夫していることに気付くとともに、土地の様子に合わせ、他地域ともかかわりながら生産活動を進めていることに気付くことができる。

(2) 小単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断	観察・資料活用の 技能・表現	社会的事象について の知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある生産(工場)の仕事に関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究している。 ・地域の工場の仕事の理解に基づいて、地域の人々の仕事について関心を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域にある生産(工場)の仕事について問題意識を持ち学習の見通しをもって追究し、解決している。 ・調べたことをもとに、地域の生産の仕事に携わっている人々の工夫について考え、適切に判断している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生産(工場)の仕事と自分たちの生活とのかかわりを見学や調査して具体的に調べている。 ・地域の生産に見られる仕事の特色や国内の他地域や外国との関わりを見学、調査して具体的に調べている。 ・見学、調査した過程や結果を分かりやすく表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域には生産(工場)に関する仕事があり、それは自分たちの生活を支えていることが分かっている。 ・地域の生産の仕事の特色が分かっている。 ・地域の生産の仕事が国内の他地域や外国などつながりがあることが分かっている。

6 小単元の基本的な展開計画と評価計画

(総時数 12時間)

週間	ねらい	主な学習活動	評価
つかむ 見通す	1 ・ 2	○副読本の資料をもとに足利の工業生産物の種類について調べる。 ○副読本の絵図を白地図に転記することにより、どのような地区に工場がたくさんあるか調べる。	○足利市の工業の特色を考え、理解することができたか。
	3	○「アキレス」の工場について調べることを知り、学習の問題を考えることができる。 ○製品の一部から完成品を予想し、それが学校の近くの工場で作られていることを知る。 ○製品がどのように作られているのか予想し話し合う。 ○学習問題を立てる。	○自分なりの学習問題をもつことができたか。
	4	○工場ではどのような工夫をして製品作りをしているか考えることができる。 ○工場ではどのような工夫をして製品を作っているのか予想しながら、自分たちでも製品の設計にチャレンジする。	○自分なりの工夫を生かして、くつを設計することができたか。
調べる まとめ	5	○工場見学の計画を立てることができる。 ○副読本や他の資料、インターネットなどを活用し、調べることを明確にさせる。 ○見学カードを作り、見学日、場所、持ち物、見てくると、聞いてくることを記入する。	○工場の仕事に興味を持ち、意欲的に調べようとしているか。
	6 ・ 7	○調べる計画にそって工場を見学し、自分の問題を解決することができる。 ○見たこと、聞いたことを作業用紙に記入する。 ○事前に考えた質問を、担当者に伝え答えてもらう。 ○作業用紙をもとに、分かったこと、気づいたこと、さらに調べたいことなどを明確にする。	○製作の様子や作業工程の工夫、働く人の思いや願いを調べることができたか。

学 び 合 う ・ 10 社 会 に 働 き か け る 本 時	8	○見学して分かったことを ・ まとめ、発表することがで 9 きる。	○個人で発見カードを作成する。 ○グループで発見カードを持ち寄り、模造紙に貼りなが ら分類をし、見学で分かったことをまとめる。 ○グループごとに発表をし、話し合いをする。	○グループで協力しながら 調べたことを絵図や 新聞にまとめ、他の グループの人に伝えるこ とができたか。
	11	○見学して分かったことを もとに、工場の仕事の工 夫について自分なりの考 えをもち、自分の理想のく つの再設計をすることが できる。	○見学で分かったことを取り入れながら、事前に設計し たくつの再設計を行う。	○見学の結果を取り入 れて、自分なりに工 夫しながらくつの設 計ができたか。
	12	○グループで話し合い、 理想のくつを提案するこ とができる。	○グループのメンバーに、自分の設計したくつを説明す る。 ○グループで話し合いながら、理想のくつを設計して、 発表をする。	○グループで自分の 考えを発表し、提案 に加わるることができ たか。

7 指導の実際

(1) とりあげた授業について(案)

① 本時の指導(12/12時)

ア 題目 グループでよりよいマイシューズを作ろう。

イ 目標

・見学して分かったことや図書室などで調べて分かったことをもとに、マイシューズについ
て話し合うことができる。 (資料活用の技能・表現)

・くつを作る上での工夫について、工場の人びとが工夫していることが理解できる。

(社会的事象への知識理解)

ウ. 展開

学 習 活 動	時間	教 師 の 支 援	評 価 ・ 資 料
1. 前時までの学習内容を振り返り、 本時の学習内容を確認する。 マイシューズについて、グループ で話し合おう。	5	・前時の学習内容を振り返り、本時のめあてを確認して、 意欲を高めさせる。	
2. 工場の人や家族の意見を振り返り、 くつ作りで大切なことを確認す る。	7	・より多くの観点をもって、設計にあたることができるよう にする。	・見学して分かったこと や図書室等で調べて 分かったことをもとに、 マイシューズについて 話し合うことができている。
3. グループでマイシューズについて 話し合う。	20	・観点を提示して、スムーズに話し合えるようにする。 ①どんなくつを考えたか。 ②それを考えたのはどうしてか。 ③工夫したことはどこか。	(観察・作業用紙)

		④一番アピールしたいのはどこか。	
4. グループで話し合ったことを全体で発表する。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を出し合い、大まかな設計図も描けるようにする。 ・グループでリーダーを決めておき、効率よく話し合いができるようにする。 ・グループの設計図を紹介し、さまざまな観点に目を向けて考えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・くつを作る上での工夫について、工場の人びとが工夫していることが理解できている。 <p>(観察・作業用紙)</p>
5. 本時の学習を振り返る。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・聞く際に、よいところを見つけさせるなどして、互いに認め合えるようにする。 ・本時の学習を振り返り、がんばったことを確認する。 	

(2)授業の実際(単元計画レベル)

選時	ねらい	主な学習活動	評価
つかむ・見通す	1 ○足利市の工業の特色をグラフや絵図から考えることができる。	<p>足利の工場ではどんなしなものが作られているのか調べよう。</p> <p>○副読本の資料をもとに足利の工業生産物の種類について調べる。 (教師の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体物を用意し、グラフの項目が実際どのようなものなのか児童が実感できるようにする。 <p>(児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械類の生産が一番多い ・プラスチックの生産も多い。 ・「せんい」ってどんなものを作るのだろう。 <p>A児・教科書の資料を見ながら、工業製品について調べることができ、みんなの前で発表することができる。</p> <p>B児・教科書の資料を見ながら、工業製品について調べることができている。</p> <p>足利のどのような所に工場はたくさんあるのか調べよう。</p> <p>○副読本の絵図を白地図に転記することにより、どのような地区に工場がたくさんあるか調べる。 (教師の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの工場がある地区の土地条件の特色をつかみ、話し合わせる。 ・足利市の地勢図と見比べることにより土地の様子や交通の様子とも関連づけて考えられるようにする。 <p>(児童の反応)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足利の南部や西部に工場が多い。 ・50号線の近くには工場が多い。 ・山辺地区にもたくさん工場がありそうだ。 	<p>足利市の工業の特色を考え、理解することができたか。</p> <p>(発言・ワークシート)</p> <p>(資料) 副読本 グラフ 足利で生産されている工業製品</p> <p>足利の地図 絵図 白地図</p>

		<p>・山辺地区ではどんなものを作っているんだろう。</p> <p>A児・・最初、地図を見比べることができなかったが、助言を与えることにより、特色を理解することができた。</p> <p>B児・・ほかの地図と見比べながら考えることができ、特色を理解することができた。</p>	
3	○「アキレス」の工場について調べ、学習の問題を考えることができる。	<p>「アキレス」では、どのようにくふうして、品物を作っているのでしょうか。</p> <p>○製品の一部から完成品を予想し、それが学校の近くの工場で作られていることを知る。</p> <p>○製品がどのように作られているのか予想し話し合う。</p> <p>○学習問題を立てる。 (教師の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・製品の一部を提示し、児童の興味・関心を高め、調べようとする意欲につなげる。 ・工場の写真を見ながら、製品ができるまでどのような工程があるのか予想させる。 ・児童の興味・関心を生かし、いっしょに学習問題を考えていくようにする。 <p>(児童の反応)</p> <p>A児・・製品の一部を見て、くつ作りについて、関心が高められた。</p> <p>B児・・友達と話し合いながら、予想することができた。くつ作りについて関心が高められた。</p>	<p>自分なりの学習問題をもつことができたか。 (発言・ノート)</p> <p>(資料) 副読本 製品の一部</p>
4	○工場ではどのような工夫をして製品作りをしているか考えることができる。	<p>自分たちでくつの設計をしてみよう。</p> <p>○工場ではどのような工夫をして製品を作っているのか予想しながら、自分たちでも製品の設計にチャレンジする。(色・形・速く走れる等)</p> <p>(教師の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者にも事前にアンケートをとり、設計の参考にするようにする。 ・様々なアイデアが出されると予想されるが、ここでは児童の考えを極力尊重するようにする。 <p>(児童の反応)</p> <p>A児・・自分でやっているバレーボールシューズを考えることができた。</p> <p>B児・・野球のシューズについて考え、重さを軽くしようと考えた。</p>	<p>自分なりの工夫を生かして、くつを設計することができたか。 (ワークシート)</p> <p>(資料) ワークシート</p>
調べる・	5 ○工場見学の計画を立てることができ	<p>「アキレス」の工場を見学する計画を立てよう。</p> <p>○副読本や他の資料、インターネットなどを活用して、調べることを明確にさせる。</p> <p>○見学カードを作り、見学に行く日、場所、持ち物、見てくること聞いてくることを記入する。</p>	<p>工場の仕事に興味をもち、意欲的に調べようとしているか。</p>

ま と め る		<p>(教師の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見学後のまとめや発表会のことも視野に入れ、グループ編成を行う。 ・見学の際のマナーについても考えさせるようにする。 <p>(児童の反応)</p> <p>A児・・質問事項をたくさん考えることができた。</p> <p>B児・・自分で調べたい内容について、質問を考えることができた。</p>	<p>(発言・観察)</p> <p>(資料)</p> <p>見学カード</p>
6 7	<p>○調べる</p> <p>・計画に</p> <p>7 そって工場を見学し、自分の問題を解決することができる。</p>	<p>「アキレス」の工場を見学しよう。</p> <p>* * 工場見学中止 * *</p> <p>○副読本や他の資料、インターネットなどを活用し、調べる。</p> <p>○作業用紙をもとに、分かったこと、気づいたこと、さらに調べたいことなどを明確にする。</p> <p>(教師の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことを作業用紙に記入させる。 <p>(児童の反応)</p> <p>A児・・見学できないということで、教科書や事前にもらってきておいた資料などで調べたが、実際に見ていないので、詳しい内容までは調べることができなかった。</p> <p>B児・・見学できないということで、教科書や事前にもらってきておいた資料などで調べたが、実際に見ていないので、詳しい内容までは調べることができなかった。</p>	<p>製品を作る様子や作業工程の工夫、働く人の思いや願いを調べることができたか。</p> <p>(ワークシート)</p> <p>(資料)</p> <p>見学ワークシート</p>
学 び 合 う ・ 社 会 に 働 き か け る	<p>8 ○調べて</p> <p>・分かった</p> <p>9 ことをまと</p> <p>・め、表す</p> <p>10 ることができ</p> <p>る。</p>	<p>調べて分かったことをまとめ、発表しよう。</p> <p>○グループで調べたことを発表し、話し合いをする。</p> <p>(教師の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表後により点を指摘し、学習の意欲がさらに高まるようにする。 ・発表カードを作り、自己評価や相互評価ができるようにする。 <p>(児童の反応)</p> <p>A児・・友達と協力して発表することができた。</p> <p>B児・・自分の考えを整理して発表することができた。</p>	<p>グループで協力しながら調べたことを他の人に伝えることができたか。(発表・観察)</p> <p>(資料)</p> <p>発表カード</p>
11	<p>○調べて分</p> <p>かったこと</p> <p>をもと</p> <p>に、工場</p> <p>の仕事の</p> <p>工夫につ</p> <p>いて自分</p>	<p>自分のせつけいたくつをよりよいものにしよう。</p> <p>○調べて分かったことを取り入れながら、事前に設計したくつの再設計を行う。</p> <p>(はきやすさ・じょうぶさ・デザイン 等)</p> <p>(教師の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べて分かったことを設計に取り入れられるように、適宜助言を与えるようにする。 ・工場で働く人の思いや願いを思い出し設計に取り入れられるよう助言する。 	<p>見学の結果を取り入れて自分なりに工夫しながらくつの設計ができたか。</p> <p>(ワークシート)</p>

	<p>なりの考えをもち、自分の理想のくつの再設計をすることができる。</p>	<p>(児童の反応)</p> <p>A児・・友達と協力して作ることができ、友達と協力することで、いろいろな視点に立って考えることができた。ただ、環境面については考えを深めることが難しかった。</p> <p>B児・・友達と協力して、作ることができた。友達と協力することで、いろいろな視点に立って考えることができた。ただ、見学していないのでどういう点が重要なのかをより深めることが難しかった。</p>	<p>(資料)</p> <p>事前に設計したワークシート</p>
12	<p>○グループで話し合い、理想のくつを提案することができる。</p>	<p>グループで話し合っただけを友だちに紹介しよう。</p> <p>○グループのメンバーに自分の設計したくつを説明する。</p> <p>○グループで話し合いながら、理想のくつを設計する。</p> <p>○グループごとに発表をする。</p> <p>(教師の支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案内容を実際にアキレスの人に知らせることを伝え学習意欲を高めるようにする。 ・自分たちの考えたくつのアピールできる点が明確になるように発表を工夫させる。 <p>(児童の反応)</p> <p>A児・・自分たちで考えたくつの特徴をしっかりと発表できた。</p> <p>B児・・みんなに特徴を細かく説明することができた。</p>	<p>グループで自分の考えを発表し、提案に加わることができたか。</p> <p>(発表・ワークシート)</p> <p>(資料)</p> <p>ワークシート</p>

8 考察

(1) 自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる教材の開発について

① 子どもが主体的にかかわり問題解決への意欲を高める実社会の教材開発

今回は新型インフルエンザの流行により、市内の学校がアキレス株式会社を見学できなくなった。しかしながら、児童にとっては「瞬足」はもちろん、上靴にもアキレスのものを使う子が多く、なじみがある。特に「瞬足」は、ソール部分に特徴があることを子ども達は知っており、「マイシューズを作ろう」では、スパイクも含め、ソールの部分までアイデアを出している。

② 社会に生きる人間の姿を追究できる教材の開発

直接見学はできなかったが、デザインや原材料からの加工など、かなりの部分を外国で作られていることを知った。そのため、児童は学区の工場の人たちだけでなく、世界(特に中国)の人々の手を渡ってきていることに気づいた。

③ 今日的な課題や視点を重視した教材の開発

アメリカと中国に工場があり、特に中国には3つあることや、学区の工場で扱う材料は中国の工場加工されたものである。また製品は東南アジアにも輸出されており、製作段階と販売段階で世界とつながっており、現在の世界的な流れを扱うことについては有効であった。

授業では扱わなかったが、工場の資料では廃棄物をなくす「ゼロ・エミッション活動」や

ISO-14001 認証取得などを取り上げて説明することもしているという。

(2) 自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習過程の工夫について

① 社会とかかわり、ともに学び、考えを深め合うことができる学習過程の工夫

1) 社会とかかわりをもって学ぶことができる学習過程

今回は、導入段階で「マイシューズを作ろう」として、児童に自分で考えた靴をイラストや言葉で表現させた。全体的にはデザインを考えようとしている児童が多く、実際にカラフルに仕上げているものがある。もちろんイメージの部分でしか考えていないものもあり、実現不可能の事柄もある。しかし、「軽い材料」・「伸び縮みする布」・「汗をすいとる」など具体的な説明もあり、現実可能な段階で児童は考えているものが比較的多い。これは、自分も靴のユーザーとしての意識から、メーカーに対しての要望可能な事柄を挙げているとも考えられる。

2) ともに学び、考えを深め合うことができる学習過程

今回は見学できなかったため、それを踏まえた「マイシューズ」の話し合いができなかった。しかし、副読本を使った学習後に話し合いをさせることができた。そのときのワークシートには①友達の考えた靴のいいところをあげさせ、②それを基にグループの靴を再考し、③その靴のアピールポイントを考えさせた。その結果A児もB児もグループで話し合い、しっかりとマイシューズを提案することができた。

② 社会と自分とのかかわりを意識し、学習のめあてを明確にもてる学習問題の工夫 残念ながら、これも見学ができなかったため、進めることができなかった。

(3) 自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる学習活動と支援・評価の工夫について

① 人や社会とのかかわりを大切にしたい学習活動と支援の工夫

「マイシューズを作ろう」で考えたものを、学習後に再び検討する際、話し合いを行った。製作の流れや工夫の視点を入れての話し合いを行った。児童と児童の話し合いは実施できたが、見学できなかったため、「工場見学の成果」というポイントを押さえることができなかった。

② 社会を実感し、考え判断する力を育てる体験的な活動と支援の工夫

構想段階では、工場の関係者が来校し話を聞く予定を確約していたが、会社の都合で実現しなかった。「マイシューズを作ろう」の原案だけでも、工場で見てもらおうと交渉したが、それも不可能になってしまった。さらに、学校近くの上ぐつを扱う店主にも相談をしようとしたが、体調を崩して話ができなかった。そのため、靴の専門家と言われる人たちからのアドバイスを受けることができなくなり、この構想のポイントを実現することはできなくなった。

③ 共に学び、考えを深め合う活動と支援の工夫

見学後の話し合いを持つことができなかったため、最初の「マイシューズを作ろう」の確認の話し合いを行った。前述の通り、ワークシートを用いての話し合いをもとに、班ごとのマイシューズを作ることができた。今回、見学ができなかったため、社会(工場)とのつながりは強くはないものの、単元を通して、マイシューズという概念で、靴への意識は持続し、一つの形を表すことができた。その中で、グループで話し合いという学習活動も、それに関わる視点を持

つことで意義があったと思われる。

④ 自ら考え判断し、社会に働きかける力を育てる評価と指導・支援の工夫

今まで、「足を保護するもの」や「ファッション」、それに「速く走る道具」など、一人一人靴に対する思いは違っていたものの、身近なところでその靴の多くが作られており、それにはいろいろな人や地域も関わっていることが分かった。さらに、マイシューズと言うことで、自分で設計してみると、やはりニーズがいろいろあることが分かった。それを受け入れつつ、消費者に喜ばれる製品を作る工夫や願いについて考える場面があり、児童にとっても学習の意義が見られた単元であった。新型インフルエンザという、希有な状況により見学ができなかったことが残念であったが、その分をワークシートや副読本で学習した。特にワークシートにはそれぞれの場面の思考や話し合いの資料とともに、記録が残り、単元の当初と結末でどのような流れで学習したかがわかり、有意義であった。

9 研究の成果と今後の課題

(1) 研究で明らかになったこと

見学ができなかったことで、構想とはことなる流れで学習したが、当初「マイシューズを作ろう」という、個人の問題意識を高めていたことが、学習を持続させるモチベーションとなった。さらに、そのことを視点にグループで話し合いも行うことができた。ただし、マイシューズを作る際に、生産者ならではの視点やアドバイス(コストや技術など)があると、もっとマイシューズに反映させることができたと思われる。

(2) 夏季大会で討議してほしいこと

中学年社会科で具体的な社会事象を見学することは、意義深いことである。できる限り小単元ごとに見学(あるいは実体験)することは、特に社会科の導入学年の3年生には必要と思われる。しかしながら、時数や地域の実態によってなかなか実行できないというのも実情である。例年、副読本に掲載されている工場の見学を予定していたが、見学することができなかった。(工場も1回だけでなく、2回ほど見学の延期を申し出ていた。)

さて、副読本などに掲載されている施設などは、それなりのノウハウが押さえられているが、掲載されていない施設や場面では、学校独自の視点等が必要であろう。情報提供となるが、その様な特色ある見学を実施している学校での視点などがあったら教えていただきたい。

(3) 今後の課題

上記のことを踏まえ、①見学のバリエーション(施設・方法など)の必要性、②見学をより有効に生かせる学習過程の工夫、③学び合いを高めるための評価の工夫、等が課題と考えられる。

＜「研究集録」栃小教研社会科研究会 評＞

栃小教研社会科教育足利支部は、「よりよい社会を築こうとする子どもを育てる社会科学習」を研究主題とし、地域とのかかわりを考えながら、自ら判断し、進んで社会に働きかける力を子どもにつけようと研究を進めてきました。自分たちの住んでいる地域の産業や消費生活の様子について理解できるようにし、地域社会の一員としての自覚をもつようにするために、「工場」を取り上げ、自分たちの生活とのかかわりから考えていくことをねらいとしています。新学習指導要領を見据えた取り組みでもあります。研究の成果を述べさせていただきます。

○ 教材の開発

子どもの実態から、授業を組み立てることが大事です。そして、子どもの関心・意欲が高まり、ねらいが達成できる題材を選ぶことも大切です。「工場」がどのような形で子どもたちに意識されているか、生活の中でどのようにかかわりがあるかを、教師側で把握しておく必要があります。

本市の副読本『のびゆく足利』でも取り上げられ、学区の中にある工場であること、子どもがよくはいている靴を製造しているメーカーであること、原材料をはじめ他の地域との関係もみられることなど工場の仕事を調べることを通して、よりよい製品をつくるための工夫や努力に気づくことができる題材であります。

○ 学習過程の工夫

さらに、「マイシューズをつくろう」というテーマを設定し、自分がかくための靴を考えることによって、機能性、安全性やデザインを考え、生産者のいろいろな工夫を考え、工場の見学の課題を絞り込むことができます。また、「マイシューズ」を班で話し合い、友だちの意見も参考にしています。このことは言語活動の充実につながる活動だと考えられます。今回は工場見学が実施できませんでしたが、「マイシューズをつくろう」というテーマを設定していたので、単元での学習活動が継続性をもってねらいに向かうことができたのではないかと思います。しかも、教師の方で机間指導、ワークシートの支援を通して、個々の学習状況を把握しながら、学習が進められました。

子どもの実態をつかみ、「マイシューズをつくろう」というテーマを設定し、自分とのかかわりから、製品をつくる上での工夫や努力、原材料や製品がどのように動いているかなど単元のねらいを教師側でしっかり押さえて授業が展開されました。

社会科は現代社会を基盤にして考え、人と人とのかかわりを通して学習問題を追究していく教科でもあります。クラスにいる子どもも、社会の一員であります。子どもの生活背景も直接関わってくることもあります。今回は工場を取り上げて、人々の工夫や努力を学び取っていく授業展開でした。その際、教師側の教材研究として、日本の産業という視点で、現在の第2次産業の状況、グローバル化、今後の持続可能な社会などを意識しながら授業づくりをしていく必要があると思います。

これからも実践的な研究をさらに深めていただきますようお願いいたします。